

「感染・療養状況、大阪モデル緑信号点灯、及び 府民等への要請」に係る専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	<p>○感染状況について <u>変異株の割合は、BA.5 が 50%程度で、拮抗して移行しており、これまでのように次の流行の波を作る優勢になる変異株が現時点では見られない。感染者数も減少傾向が続いており、現在は、7 波後の底（昨年 10 月）よりも減少し、6 波と 7 波の間の底（昨年 6 月）まで減少し、さらに減少傾向が続いている。重症化率、死亡率が 7 波に比べると上昇してきているが、全数把握見直しとそれに伴う高齢者割合の増加、高齢者の基礎疾患の増悪などの因子があり、病原性が高まったとまでは言えない。</u></p> <p>○療養状況について いわゆる第 8 波では増加傾向の時期でも、入院や宿泊療養もひっ迫することはなく、<u>現在は減少傾向が持続している。</u></p> <p>○緑信号点灯について <u>事前に設定した条件をクリアしたので黄色信号を解除し緑信号点灯に賛成。</u></p> <p>○府民等への要請内容について <u>国の基本的対処方針に準じており、整合性をとることが必要であるため、要請内容の変更は合理的。</u></p>

専門家	意見
掛屋副座長	<p>○感染状況について 報告された患者数および登録者数、陽性率等の減少が認められ、第8波が明らかに収束に向かっていることが示唆される。一方、現在は全数把握ではなくなっているため、未検査や報告を行っていない方も多く隠れている可能性もある。また、インフルエンザは流行のピークにある可能性が考えられるが、3年ぶりの流行で、高い感染率で流行が継続する場合もあり、今後の流行状況を見守る必要がある。</p> <p>○療養状況について 新型コロナウイルス感染症の重症患者および軽症・中等症患者、自宅療養者も減少傾向が認められ、医療逼迫への影響は緩和されていると考える。第6波の死亡例の60.7%が、直接死因として新型コロナ関連であったことに対して、第7波では53.2%、全数届け出見直し後（2022.9.27以降）では48.0%と、その割合が減少しており、<u>高齢者の誤嚥性肺炎や基礎疾患の増悪の割合が増えた可能性が示唆される。多くの高齢者がワクチンを接種し、流行株がオミクロン株に変わっていったことが原因の一つと考える。</u>一方、<u>新型コロナウイルスは高齢者や基礎疾患を有するヒトにとって生命に関わるリスクであることは変わりなく、病院や福祉・高齢者施設での感染対策の継続を期待する。</u></p> <p>○緑信号点灯について 基準を満たす状態となれば、<u>黄信号の基準から緑信号に変更することに異議ありません。</u></p> <p>○府民等への要請内容について マスクの着用に関しては、<u>基本的に政府からの方針に沿うことに賛同する。</u>現在の流行状況やオミクロン株による重症化率等を勘案した推奨と考える。年度末、年度初めの卒業・退職、入学・就職シーズンを迎え、感染症法上の変更が行われる以前にマスクの着用の見直しが行われるが、<u>マスク着用に関しては個人の主体的な選択が尊重されることが望ましい。</u>また、<u>高齢者・社会福祉施設や病院などの環境においては、ハイリスクの人々を守るためにマスク着用がしばらくは必要と考える。</u>ハイリスク者に配慮ができるやさしい社会づくりに期待したい。</p>

専門家	意見
木野委員	<p>○感染状況について 資料 1-1 に示されているように、<u>第 8 波における感染状況は確実に鎮静化しているように思う</u>。発熱外来やオープン検査受診者における新規陽性患者数は減少している。因みに、当院における週間 COVID-19PCR 検査陽性率は 2023 年 1 月 2 日～9 日で最高 39.45%であったものが、直近（2/13 以降の 1 週間）の PCR 検査陽性率は 3.51%と大幅に減少している。同様にコロナ病棟への入院患者数も減少している。現在、<u>新型コロナ感染に代わってインフルエンザ感染が拡大してきており</u>、2023 年 2 月 6 日～12 日の定点当たりの報告数は、大阪が 28.12 に対して、高槻市・島本町では 62.1 に達している。</p> <p>○療養状況について 上記のように、コロナ病棟への入院患者数は減少している。しかしそれでも現在、胸部 CT 検査で典型的な COVID-19 の肺炎像を示す中等症Ⅱが 3 名、軽症 1 名入院中である。</p> <p>○緑信号点灯について 資料 2-1 大阪モデル「警戒解除」への移行の基準を満たしており、<u>緑信号への移行に同意する</u>。</p> <p>○府民等への要請内容について <u>新型コロナ感染が鎮静化してきているが、COVID-19 が無くなった訳ではなく、今後新たな変異株による感染が再燃しないともかぎらない</u>。当院は今後も従来通り、コロナ病棟を運営するとともに、発熱外来を継続し、救急受け入れ体制も継続する。一般外来では、インフルエンザやコロナの検査を先に行い、陽性患者は感染症患者として別枠で診療する。病院には高齢者や重症化リスク因子を有する方が多数入院されており、また外来にも多数来院され、待合室も混雑した状況にある。病院玄関前では来院される方のトリアージを行っているが、<u>発熱などの症状があれば、必ず事前に申告すること、そして病院を受診する際には、必ずマスクを着用するよう、テレビや新聞等を通じて府民に要請していただきたいと思う</u>。</p>

専門家	意見
<p>忽那委員</p>	<p>○緑信号点灯について 流行状況、病床の逼迫状況ともに落ち着いている時期と言える。緑信号点灯については妥当と思われる。</p> <p>○府民等への要請内容について 今回から府民への要請内容から「マスク着用」の文言が無くなっている。これは政府の「マスク着用については個人に委ねる」という方針によるものであるが、<u>マスクを着けないことを推奨しているわけではないことに注意が必要である。屋内におけるマスク着用は感染防止に有用であり、その前提をもとに各自が、マスク着用が必要な状況や場面を判断できることが望まれる。</u></p> <p>また、<u>医療機関など新型コロナに感染した際に重症化リスクが高い方が多くいる施設では引き続きマスク着用をお願いしたい。</u></p>

専門家	意見
白野委員	<p>○感染状況について 新規感染者数、重症者数、陽性率は低下している。 第 8 波においては、行動制限はなく、人流や海外からの入国者数は増加しているにも関わらず新規感染者数は低下していることから、<u>行動制限よりもワクチンの普及、一定数の方が感染したことによる集団免疫効果の方が大きいものと思われる。</u> <u>インフルエンザについては、ここ 1-2 週だけでの判断は難しいが、ピークが見えてきている。</u></p> <p>○療養状況について 入院患者数は減少しており、救急搬送不応需率も低下している。 局所的にクラスターが発生している医療機関・高齢者施設はあるが、地域全体として病床には余裕がある。</p> <p>○緑信号点灯について 規定を満たせば、<u>緑信号点灯は問題ない</u>と考える。</p> <p>○府民等への要請内容について <u>提示いただいた方針にはおおむね賛成であるが、一点だけ懸念がある。</u> 3 月 13 日のマスク着用の考え方の見直しに際し、「府民等への要請」の 2 枚目で「適切なマスク着用」の文言が削除されているが、<u>今後も場面に応じて適切にマスクを着用すべきであるので、この文言は削除すべきではない</u>と考える。 11 枚目にも「感染防止対策としてマスクの着用が効果的である場面等を示し、一定の場合にはマスクの着用を推奨」とある。 例に挙げられているような「着用が効果的な場面」では着用が推奨されることも強調し、自身が必要と判断して着用している人や、着用を求めている事業者等に不利益が及ばないように配慮いただきたい。 また、当然のことながら、<u>有症状の際はマスクを着用する「咳エチケット」の考え方は継続していただきたい。</u> <u>3 月 13 日以降、「もう一切マスクをつけなくてもいい」ととらえられると、リバウンドでの感染増加が懸念される。</u> <u>行政や報道各位にも、「マスク不要」ありきではなく、「必要な場面では適切に着用する」こともしっかり呼びかけていただきたい。</u></p>

専門家	意見
高井委員	<p>○現在の感染状況、療養状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で第八波はリバウンドの兆候を見せておらず、連日の新規陽性者数や療養者数は低位で推移している状況。ただし、<u>入院期間の長期化が生じており、病床使用率が低位であっても、院内スタッフの負担は引き続き生じている点に留意する必要がある。</u> ・病院に対する特殊勤務手当については、本年2月末の勤務実績分をもって廃止することであるが（前回の対策本部会議資料掲載）、現場の受け入れ病院からは疑義が寄せられており、継続をご検討いただきたい。現時点で5類に移行しておらず、各医療機関は継続した感染対策を講じている状況にある点、改めてご理解いただきたい。 ・これまでの経験を踏まえると、<u>新年度開始以降や5類移行の5/8前後に、次の波が立ち上がる可能性がある。今は感染の波の「底」と推察され、今後どのように推移するのか判然としないため、引き続きの感染対策が重要。</u> <p>○緑信号点灯について：賛同する。</p> <p>○府民等への要請内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用の考え方を見直しについては、3/13 から適用となる。今般の府民への要請は、国方針を踏まえたものであるが、<u>不特定多数の人が多く集まる、あるいは換気が十分になされていない空間においては、マスク着用が効果的とされている。府民におかれては、状況に応じたマスク着用をお願いしたい。</u> ・2/10 付で吉村知事がツイートされている通り、<u>医療機関や高齢施設でのマスク着用は引き続きお願いしたい。医療機関等をはじめ、マスク着用が効果的な場面について、行政からの発信を希望する。</u>

専門家	意見
<p>倭委員</p>	<p>○感染状況について 新規陽性者数は継続して減少傾向にあり、医療機関からの報告患者数、陽性者登録センター登録者数ともに減少している。陽性率も 5.1%と減少傾向にあり、20 歳未満の割合が減少している。</p> <p>○療養状況について 病床使用率も 20%を下回り、減少傾向にある。また、重症病床使用率も 10%を下回り、減少傾向にある。宿泊施設療養者、自宅療養者数も減少している。昨年<small>の</small>第 7 波と昨年<small>の</small>9 月 27 日以降分とを比較すると、60 歳以上での年代別重症化率、死亡率は上昇している。直接死因の割合を見るとコロナ以外の割合が増加している。<u>基礎疾患のある方において、コロナ感染が基礎疾患の悪化に繋がらないように、早期診断、早期治療及び 2 価ワクチンの追加接種を引き続き行っていく必要がある。</u></p> <p>○緑信号点灯について 2 月 23 日に、大阪モデルの指標が警戒(黄信号)解除の目安に到達する見込みであることから、<u>警戒解除(緑信号)に移行することに賛同する。</u></p> <p>○府民等への要請内容について <u>基本的な感染対策（特に換気、手指衛生など）の継続、医学的に接種可能な方におけるワクチン接種、追加接種を引き続きお願いしたい。マスク着用においては、高齢者等重症化リスクの高い者への感染を防ぐため、医療機関や高齢者施設等へ行かれる際はマスク着用をお願いしたい。</u></p>